



Let's 学生広報サポーター

春先の寒さが残る中、2025年4月21日(月)に材料エネルギー学部棟と産学協創インキュベーションセンターの竣工記念式典が行われました。今回は、竣工記念式典の様子と共に、待望の新学部棟と産学連携の中心となるインキュベーションセンターの今を取材してきました。



(取材・撮影・学生広報サポーター R.I.)

【学生取材】新学部棟とインキュベーションセンター竣工 — 新たな地域創生の架け橋に



式典終了後、産学協創インキュベーションセンターと材料エネルギー学部棟の内覧会が行われました。三浦機構長の先導の元、まずは、産学協創インキュベーションセンターを見学しました。

この日の式典には、廣田貢文部科学省文教施設企画・防災部計画課課長、丸山達也島根県知事や児玉泰州島根県工業理事、東北大学並びに秋田大学関係者、このほか地元企業、自治体関係者らあわせて総勢60名の方が参加されました。

竣工への祝辞では、文部科学省代表の廣田計画課長、丸山県知事、児玉工業理事より、材料エネルギー学部の発展と地域の産業振興に対する期待を寄せるお言葉が述べられました。その後、大谷学長らによるテープカットが執り行われました。

竣工式典後半では、三浦材料エネルギー学部長・三浦先端マテリアル研究開発機構構長による両組織の現状と今後の展望についての紹介がありました。

式典終了後、産学協創インキュベーションセンターと材料エネルギー学部棟の内覧会が行われました。三浦機構長の先導の元、まずは、産学協創インキュベーションセンターを見学しました。

本センターは、鉄筋コンクリート造2階建て、総工費約8億4,000万円、延べ床面積は1,944㎡。元々駐輪場であった敷地を最大限に活用した広さとなっています。

1階は広いフロアとなっており、もの創りに必要な三次元積層造形の最新機器は勿論のこと、様々な材料の分析評価研究機器の設置が予定されており、数年以内に地域の試作開発センターとして機能することです。真新しい研究機器に、かなり研究意欲がそそられる、そんな理系にとって天国のような空間になることでしょう。

続いて、材料エネルギー学部棟に向かいました。材料エネルギー学部棟は、鉄筋コンクリート造5階建て、エレベーター1基、延べ床面積4,076㎡、総工費約16億8,000万円。総合理工学部2号館の一部を取り壊し、建設されました。隣接した総合理工学部2号館とは、各フロアが通路で繋がっています。

材料エネルギー学部棟内の雰囲気は、他の学部の建物とは顕著に異なります。1階は、大型分析機器を揃えており、その中でもリガクのSmartLab全自動多目的X線回折装置は透過力の高いAg線源を採用し、結晶・非晶問わず材料系局所構造特定に活用できる環境が整備されていました。その他の階では情報系・化学系・金属系とそれぞれに実験室などが設けられており、実際にグローブボックス内の不活性ガス雰囲気下で実験



～取材を終えて～

総合理工学部に身を置く私にとって、産学協創インキュベーションセンターや材料エネルギー学部棟の設備はかなり目を見張るものばかりでした。新型の機器だけでなく、研究のための様々な分析の選択肢を広げられる、そのような可能性を強く感じました。



SUPPORTERS VOICE

新たな価値を一緒につくる、島根大学の共創パートナー

日鉄テクノロジー株式会社

右から
テクニカルアドバイザー 末廣正芳さん
文化財調査・研究室長 渡邊緩子さん
文化財調査・研究室主査 隅 英彦さん
テクニカルアドバイザー 迫田章人さん



新しい境地を開く、青銅器研究の国際拠点へ

法文学部は、2024年12月に「日鉄テクノロジー株式会社」と産学連携研究協定を締結し、現在、「青銅器・青銅器文化・金工技術研究の国際的拠点」の形成を目指した取り組みを進めています。

協定締結の背景には、前年度に「原料レベルでの研究を行いたい」という岩本崇准教授をはじめとする大学側の構想があり、その実現のために分析を依頼したところ、想定を上回るデータが得られたことが契機となりました。これを受けて、現在も継続的に価値ある研究が行われています。これまでに30面以上の青銅鏡の分析が実施されており、その貴重なデータに大学も大きな期待を寄せています。

『日鉄テクノロジー株式会社』文化財調査室は、国内最大規模の試験分析会社として、さまざまな文化財に関する学術的・歴史的調査研究を行っています。同室には、最新の研究装置や分析機器に加え、材料研究・腐食調査・分析の専門スタッフが在籍しています。「私たちの仕事は、優れた分析技術に基づく、良質な結果を出すことだけ」でなく、それを生かすための科学的な考察を行うことにあります。考古学研究をより深めていただくために、ワンチームで最

善のサポートを行っています」と、研究に対する姿勢を語ります。

青銅鏡という貴重な文化財を、微小領域から採取したサンプルによる成分分析をするだけでなく、内部の組織観察を大胆に行う覚悟も必要です。実際、ウォータージェット加工を用いた断面観察なども行われました。こうした分析結果からは、製作された時代背景や技術の詳細が明らかになるだけでなく、当時の権力構造や文化の伝承方法など、幅広い歴史的知見を得ることが出来ます。

「昔の技術を現代に応用できるかもしれない」という視点もあります。分析は非常に奥が深く、単なる成分の違いだけでなく、当時の技術者の思考や手法を垣間見ることができ、分析のたびに感動を覚えます」と関係者は語ります。異なる専門性を持つ大学と企業が連携することで、新たな視点が生まれ、世界から注目される新たな価値創出へとつながっています。



クリーンルームにて、超精密測定である鉛同位体比分析を行っている様子



産学官連携はオープンイノベーション推進本部へ！

連絡先 オープンイノベーション推進本部
<https://www.openinnov.shimane-u.ac.jp/>

／ 気軽にご相談ください！ ／

オープンイノベーション推進本部は、産学官連携の推進を図り学内外のネットワークを強化し、産学官連携の共同研究を通じてその研究成果を社会に還元し、地域産業の振興やイノベーションを創出する皆様の真の共創パートナーを目指します。



オープンイノベーション推進本部長 松本真悟

